



ゴールドラット博士の TOC (27) (チェンジ・ザ・ルールの再読)

何故出せる筈の利益が出せないのか (2)

4 月②のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2025 年 4 月 11 日(金)

制約条件(ボトルネック)に基づき、組織全体の制約条件を特定し、それを解消する努力が必要である。ところが、多くの企業は部分最適化に焦点を当て、全体最適化を怠る傾向があり、制約条件を見過ごし、潜在的な利益を失う可能性がある。

それは、企業が誤った前提条件に基づいて意思決定を行うことであり、変化する市場や技術に対応せず、企業の競争力を低下させ、結果として出せる筈の利益が出せないことになる。

情報とシステムの誤用。

情報システムは、適正なルールとプロセスに基づいて活用されなければ、期待される利益を生み出すことはない。

「チェンジ・ザ・ルール」では、「IT 投資」だけでは利益向上につながらず、古いルールや習慣を打破し、ポリシーを変えることが述べられている。

組織内の各部門が全体の目標を忘れ、自己の部門の目標のみを優先する場合、部分最適が発生し、全体の効率を低下させ、利益を減少させる可能性を生むことになる。

組織内の各部門が全体の目標でなく、自部門の目標を優先する場合、部分最適が発生する。部分最適化は全体の効率を低下させ、利益を減少させることになる。

企業は新しいアイデアや変化に対して抵抗を示しがちで、変化への抵抗は、新しい市場機会を逃し、競争力の低下につながる可能性がある。

これらのマイナス要因を克服し、潜在的な利益を最大限に引き出すためには、次のようなことが重要になる。

- (1) 組織全体の制約条件を特定し、それを解消すること。
- (2) 常に前提条件を見直し、変化に適応すること。
- (3) 情報システムを適切に活用し、業務プロセスを改善し続けること。
- (4) 全体最適の視点を忘れず、部門間の協調を促進すること。
- (5) 変化を恐れず、常に新しいアイデアを取り入れること。